ドキュメンタリー上映会

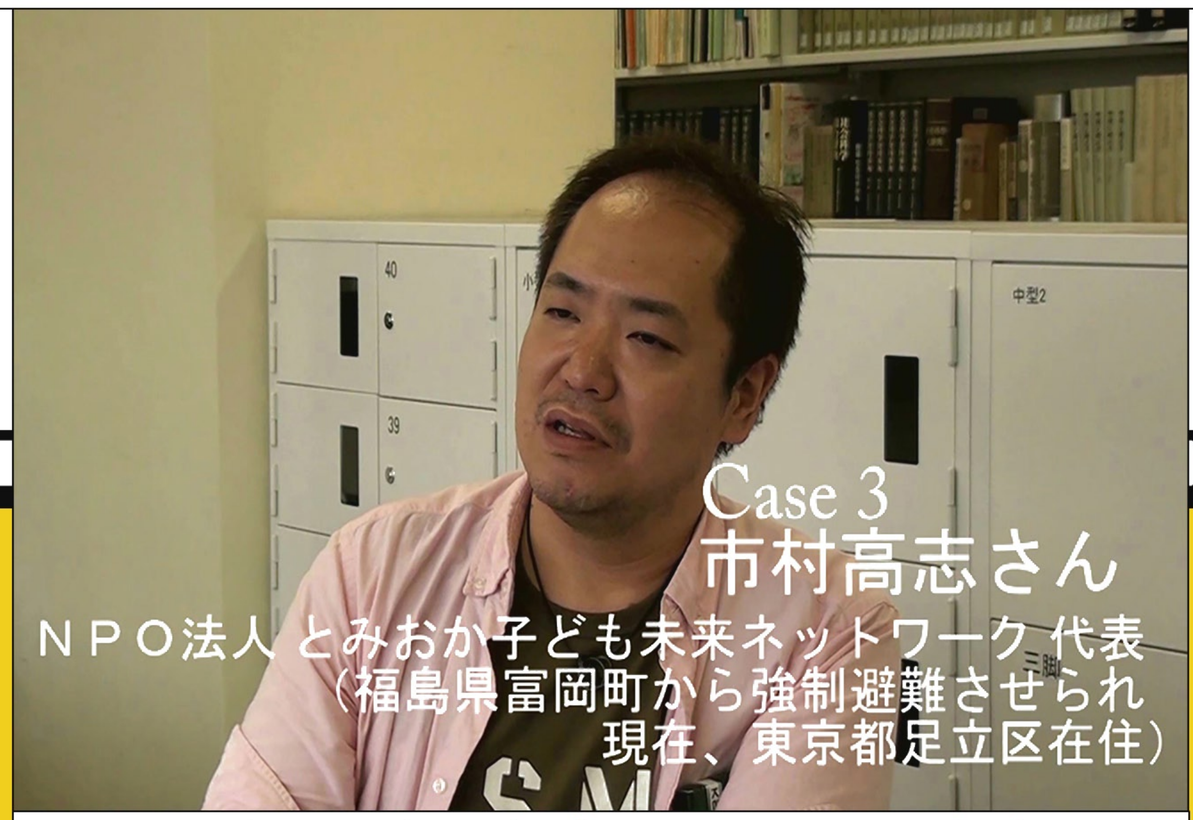
＜社会学的映像モノグラフ＞

つむぎ合う、未来。

―ポストフクシマの新しい生き方と社会像―

沖縄・岡山・東京で取材・撮影を重ね、「語り（ナラティブ）」によって、原発事故とポストフクシマのありようを捉え返し、「未来」を照射する“社会学的映像モノグラフ”。

福島第一原発の20キロ圏内にある福島県富岡町から避難を強いられ、東京都足立区で避難生活を続けながら、避難者を横につなげる活動をしている人もいる。



原発と人生と地域コミュニティの交差

放射線被曝から子どもを守るために、神奈川県から沖縄県に渡った人がいる。

子どもを守る決意と実行

2011年3月16日に福島県川内村が全村避難指示を発令する前に、川内村を自主的に避難して、生まれ故郷の岡山に戻った人もいる。

女性性とsociety（社会）

東京都世田谷区で、放射能汚染の危険から子どもを守ろうとひた走る人もいる。

エンパワーメントと自分たちらしさ

岡山には、震災が起こったその日のうちに、避難者の支援活動を始めることを友人と共に決断し、素早く動き始めた人もいる。

ボランタリズムと横つながり

日本大学文理学部社会学科後藤範章研究室が約2年5ケ月の歳月を費やして制作（調査・取材・撮影・編集）し、2014年3月末に完成した映像作品。

©日本大学文理学部社会学科 後藤研究室